

東陽病院 鈴木健士 医師

健康への メッセージ

シリーズ⑦

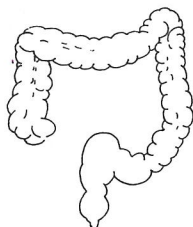
大腸ガンの話

増加している大腸ガン

便通異常と血便
くれぐれも便にご注意

光町のみなさんこんにちは。今回は前回の胃ガンより少し下の方に移動して腸のガンについてお話しします。腸には小腸、大腸、直腸とありますが、小腸のガンは非常に少なく、一般に腸のガンというと大腸、直腸のガンを指すことが多いようです。これらのガンは元来欧米人に多い病気といわれていましたが、最近日本でも食事が欧米化したため徐々に増えており、現在日本で3番目に多いガンとなっています。(必ずしも食事のためだけでなく検査法などが進んだためかもしれません)

大腸ガンの症状で多いものは、便通異常と血便です。他には腹痛や腸閉塞(腸が詰まってしまうこと)などで発見されることもあります。便通異常は便秘することが多いようです。つまり余計なできものが邪魔をして便が通りにくくなるわけです。しかし、大腸でも特に肛門より少し距離がある場合には、かえって下痢になったり、下痢



と便秘を繰り返す場合もあります。血便にもいくつかのタイプがあります。便の表面に血が付いているもの、便全体が赤かったり黒かったりするもの、排便後にポタポタと血がたれるものなどがあります。ポタポタたれるものは肛門の病変、特に

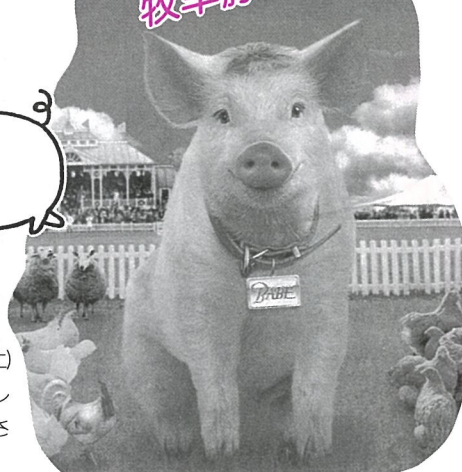
痔の場合が多いようです。出血が肛門から遠ざかるにしたがって便全体が変色し、特に黒く変化します。(まるでコールタールのように真っ黒なのでタール便と呼ばれています)これらの症状がみられる場合は、ぜひ一度病院で受診し腸の検査を受けてください。しかし胃ガンの場合と同じで、早期の大腸ガンもまず症状を出すことはありません。(というよりほとんどのガンは、早期には症状を出しにくいようです)ですから早期のうちに発見したいと考えれば症状が出る前に、となるのですがこれはなかなか難しいのです。ならば検診でと誰しも考えるのですが、この検診が難問です。現在大腸ガン検診というと、便に血液反応があるかどうかをみているものがほとんどですが、この検査ですと出血がなければ病気があっても異常なしとなる場合もあります。もちろん完全な検査などあり得ないのですが、今の検診のやり方に異論を唱える人がいることも事実です。しかし、今のところ他によい検診方法も見出されていないようです。便検査であれば目に見えない程度の出血でも判定出来ますから、やはり検診に意味がないとはいえないでしょう。今のところ最良の方法は、便の状態に気を配り、検診をきちんと受けなにかあれば病院で検査を受けることなのかと思えます。治療は胃ガンと同じで、やはり手術ということになります。

水洗トイレでない場合には難しいかもしれませんが、くれぐれも便にご注意を。おしりを拭いた紙を確認することもよいと思います。

新春映画会



夢は世界の
牧羊豚になること



＝町立図書館＝
☎043311

- ・期日 1月5日(日)
- ・場所 ハイビジョンホール
- ・上映時間 1回目 午前10時
2回目 午後2時
- ・定員 各100人
- ・入場 入場整理券(無料)を12月14日(土)から図書館カウンターで配付しますので、お早目にお求め下さい。

ハゴット農場には、いろいろな動物たちが住んでいた。ニワトリは卵を、牛はミルクを、犬は羊たちの番をする。猫はかわいいペットに。そしてブタは……。

いつかは人間に食べられる。そんな自分の運命を知らない子ブタが、本当の自分に目覚め周囲の世界を変えます。